

少子・高齢化の経済学 講義ノート

第1回 Course Matter, 序論 (4月18日)

講義ノートについて

今年度の授業では、必要があるときには講義ノートを作成して、配布します(すべての講義についてノートを準備できるかどうか定かでないため、このような言い方にしています)。

講義ノートは担当者のホームページより、PDF ファイルでダウンロード可能にします。原文章は Microsoft Word で作成していますが、Word の機能としての HTML への変換方法では、私の思うように書式をコントロールできないので、とりあえず PDF ファイルを選択しました。HTML ファイルでの講義ノートの公開は、今後の課題です。PDF ファイルを読むには、Acrobat Reader が必要です。各自 Adobe のサイトからダウンロードしてください。

予習

このスペースでは、受講前に必要な準備を指示します。

第1回の授業では、必要な予習項目はありません。

Course Matter (講義概要への補足)

出席

出席はとりませんが、毎回の出席が原則です。少人数の授業になると予想されますので、出席をとらなくても受講態度を把握することは容易です。

第1, 2回は shopping time として、出席は任意ですが、第3回までに受講の意思決定をしてください。第3回授業時に受講者リストを作成します。

第1, 2回の欠席者に対するケアはとくにありません。

テキスト・参考書

八代尚宏『少子・高齢化の経済学』を参考書に指定します。受講者は各自、購入してください。

参考書としたのは、受講者には少子・高齢化の基本的な議論をこの本で予習してもらい、授業では、基本的な議論の理解を確認することと、論文・資料等を補足して進んだ議論をおこなうことを目的としています。

授業のレベル

履修の前提として、「ミクロ経済学」、「マクロ経済学」、「計量経済学」の大学院コアコース科目をあげています。この授業では、コアコースほどの数学的議論は登場しませんが、必要に応じて数学的議論を取り上げます。受講者はそれを理解するために、大学院コアコース程度の基礎知識があることを授業の前提とし、基礎知識自体を授業で説明することはありません。コアコースを受講していない学生を排除するものではありませんが、各自の努力で足りないと思われる基礎知識を補ってください。

授業の進行

このトピックでの授業をやるのは今回がはじめてなので、スケジュールについては今後の進行状況によって、変更される場合が（大いに）あります。

講義概要では、前期を講義、後期を演習形式としましたが、受講者の様子を見た上で、講義のトピックごとに演習形式の授業をはさみこむ可能性も考えています。

序論

- 1．経済学的方法論
- 2．マクロ経済的視点
- 3．制度改革の視点

人口と経済

総務庁統計局

「国勢調査」(1995年)

厚生省大臣官房統計情報部

「人口動態統計」(1995年)

国立社会保障・人口問題研究所

「日本の将来推計人口(平成9年1月推計)」

政府での議論

1．少子化

人口問題審議会

「少子化に関する基本的考え方について」(1997年10月)

少子化への対応を考える有識者会議

「夢ある家庭づくりや子育てができる社会を築くために」(1998年12月21日)

厚生省

「重点的に推進すべき少子化対策の具体的実施計画について(新エンゼルプラン)」

(1999年12月19日, 2000~2004年度)

少子化への対応を推進する国民会議

「国民的な広がりのある取組みの推進について」(2000年4月25日)

2．社会保障

社会保障構造の在り方について考える有識者会議

「21世紀に向けての社会保障」(2000年10月27日)

政府・与党社会保障改革協議会

「社会保障改革大綱」(2001年3月30日)